

研究タイトル：

森田双対をもつ環の研究



氏名：小池寿俊 / KOIKE Kazutoshi E-mail: koike@okinawa-ct.ac.jp

職名：教授 学位：博士(理学)

所属学会・協会：日本数学会、情報処理学会

キーワード：非可換環、森田双対、準フロベニウス環

技術相談
提供可能技術：

- ・環論を中心とした代数に関する理論
- ・数学の一般向け講演

研究内容：

非可換環(必ずしも積の可換性を仮定しない、単位元をもつ結合的環)の研究を行ってきた。最近では、森田双対や自己双対をもつ環に興味をもち、調べている。森田双対とは、 R と S を環とすると、左 R 加群の圏と右 S 加群の圏のある種の部分圏の間の双対(反変圏同値)である。森田双対の最も典型的な例は、体上の有限次元ベクトル空間の通常の双対空間による双対である。このように、 $R=S$ のとき、森田双対は自己双対と呼ばれる。どのような環が自己双対をもつかという問題を研究している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

Einstein 方程式の時間大域解の存在証明 とその漸近的振舞の解析



氏名:	成田 誠 / NARITA Makoto	E-mail:	narita@okinawa-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	日本数学会, 日本物理学会, 国際一般相対論及び重力理論学会		
キーワード:	一般相対論, 時空特異点, ブラックホール, 相対論的宇宙論, 非線型偏微分方程式		
技術相談 提供可能技術:	- 相対論をはじめとする理論物理学で扱われる計算 - 物理学・数学の一般向け講演		

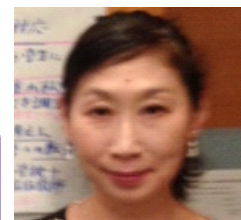
研究内容: Einstein 方程式の時間大域解の存在証明とその漸近的振舞の解析

- 一般相対論及び偏微分方程式
- ・Einstein 方程式の時間大域解
 - ・特異点定理
 - ・時空特異点と宇宙検閲仮説
 - ・初期特異点と BKL 予想

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：



氏名： 星野恵里子 / HOSHINO Eriko E-mail: hoshino@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 文学修士

所属学会・協会： 日本アイルランド協会 日本イエイツ協会

 キーワード： ウィリアム・ブレイク グノーシス主義 ウィリアム・バトラー・イエイツ アイルランド語
 カハル・オ・シャルキー

 技術相談
 提供可能技術：

- ・英語
- ・イギリス文学
- ・アイルランド文学

研究内容：

・ウィリアム・ブレイクの作品群をたどっていくと、ある時期にグノーシス主義の影響が色濃くみられることがわかる。この傾向は、たとえば Songs of Experience に始まり、預言書のある時期まで続く。であるならば、それはいつごろまでこの傾向が続き、なぜ最終的にはブレイクはグノーシス主義を利用することをやめたのか。そのヒントとなる作品が Vala, or The Four Zoas にあるように思われる。そこで、本作品を構成している「9つの夜」を解析しながら、本テーマを考察したい。

・アイルランド文学の父とも言われているウィリアム・バトラー・イエイツに与えたウィリアム・ブレイクの影響はかなり大きいことは明白であるが、イエイツは自分の思想の発展のためにブレイクを利用していた感がある。たとえば、作品の多くの箇所に言及されている「薔薇」のイメージであるがこれはほとんどが、ジョン・キーツからの借用であることが指摘されている。しかしながら、ブレイクの Songs of Experience には有名な 'The Sick Rose' という作品があり、イエイツは意図的にブレイクの薔薇のイメージを無視していたと考えられる。それはどのような意図のもとに無視されたのか、拡大すれば、ブレイクにあって特徴的でありながらイエイツに無視されていた概念はどのようなものがあるのだろうか。ともすればその類似点ばかり強調されるこのブレイクとイエイツの決定的な相違点は何か。また、「文学史」というより大きなコンテキストの中で、ブレイクやイエイツの薔薇観はどのような意味を持つのであろうか。

・アイルランドは数百年間にわたり英国を宗主国としてあおいでいた。本来、アイルランドには「アイルランド語」という英語とは全く異なる言語があったが、英国植民地時代はアイルランド語使用を禁止され、英語使用を強制されていた。その影響は文学にも色濃く残り、アイルランド文学の父といわれるイエイツや、ほかのメジャーな文学者でさえ、英語で作品を執筆している。しかしながら、アイルランド語で執筆される文学は依然として存在している。アイルランド語で執筆する現代詩人のひとりに、カハル・オ・シャルキーがいる。彼は自分がゲイであることを表明した最初のアイルランド語詩人としても知られている。オ・シャルキーにおけるアイルランド語とは何であるのか、英語とはいかに異なるのか、彼の恋愛詩は果たして男性対男性のものなのか、などを詩人の作品をほかの言語を介さずにアイルランド語で解読しながら研究する。

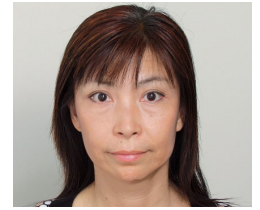
共著「カハル・オ・シャルキー」 木村正俊編『アイルランド文学』（開文社出版株式会社）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

研究タイトル：

「自覚」に関する哲学的研究



氏名：	青木 久美	E-mail：	aoki@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	東西宗教交流学会、比較思想学会、西田哲学会、日本宗教学会、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会		
キーワード：	空、絶対無、自覚、ナーガールジュナ		
技術相談 提供可能技術：	仏教研究 ナラティブ・セラピー 通訳ガイド		

研究内容：

研究内容：自己とは何かというテーマについて比較哲学的、心理学的に追及しています。また、自己と他者との関係や自己と世界との関係、心と体の関係についても考察しています。

これまでの研究では、ナーガールジュナ(龍樹)の「中」の論理、西田幾多郎の場所的弁証法、ヘーゲルの過程的弁証法、フッサールの現象学、ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論、デリダの脱構築、ケン・ウィルバーの進化論などを、比較対象として取り扱いました。

哲学のほか、沖縄では英語も教えております。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

地形学的手法を用いた環境変遷史の解明



氏名： 木村 和雄 / KIMURA, Kazuo E-mail: kimura@okinawa-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 東北地理学会、日本地質学会、ネパール地質学会ほか

キーワード： 地理学、地形学、第四紀地質学

技術相談
提供可能技術： 地形図、空中写真、google earth などを用いた地形判読技術、地表踏査法

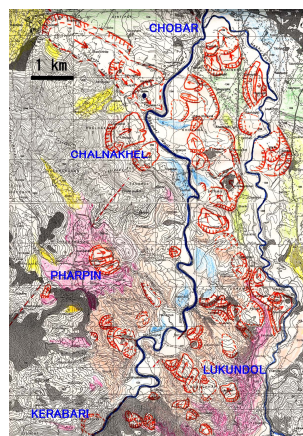
研究内容：

臨海低地における微地形変化とイベント堆積物



左の写真はヤンバルの小さな川、大浦川沿岸に打ち上げられたサンゴの遺骸です。浅い海底に棲む造礁サンゴの塊が内陸まで運ばれる要因として、最も有力な現象は津波です。このような堆積物の性質、分布や年代などを調べることで、地形変化（人間にとっては災害）の解明を目指しています。このサンゴは西暦 1950 年以降に死んでいて、地下には埋没していなかったことから、1960 年チリ地震津波で遡上したと考えられます。

巨大地すべりはなぜ起きるのか？

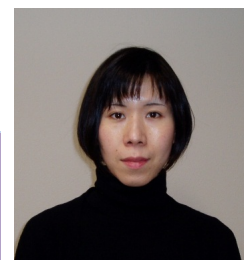


上の写真はネパール、カトマンドゥ盆地南縁の地すべり密集地、右はその付近の判読例です。滑落崖の長さが1km に達するような大きな地すべりは、数が少なく、発生要因もよくわかっていません。そこで巨大地すべりの世界的な分布や形成事例を検証しています。これ、沖縄の地形・骨格を知る上でも重要な筈です。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
特に無し	

研究タイトル： (1) 近代日本の芸能の諸相 (2) 文化と社会



氏名：	澤井 万七美／SAWAI Manami	E-mail：	sawai@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本演劇学会・芸能史研究会		
キーワード：	演劇、芸能、近代、日本、文化と社会		
技術相談 提供可能技術：	公開講座		

研究内容：

最先端のデジタルアートから数百年の歴史を有する伝統芸能まで、日本は実に幅広い文化を保持している。明治維新以後、西洋文化の流入を受けて、新しいタイプの演劇・芸能が次々に誕生した。そうした流れの中、統芸能の多くが、西洋文化と共存する形で受け継がれてきた。さらには、「映画と琵琶」など、両者のコラボレーションがさまざまな形で試みられ、人々の心を躍らせてきたのである。このような事例は、日本人の柔軟な精神構造がよく反映されているものと考えられる。こうした日本文化の多様性を、当時の雑誌や語録などから読み解いていく。

また、文化が社会全体にどのような波及効果をもたらすのかについても展望する。沖縄高専においては、専攻科生に対して「文化と経済・産業」というテーマを掲げ、感性価値を活かしたものづくりプロジェクトの発案を促す講義を行っている(2009～2010年、2012～2014年)。

<公開講座等実績:>

- ◆「日本文化を感じよう ～ながとからの波～」企画・実行委員、映像解説(ルネッサながと・東亜大学共催 早稲田大学演劇博物館後援／山崎正和講演会・中村歌右衛門家所蔵映像上映会・東亜大学生による劇場案内ツアー／2000年12月)
- ◆「県民活動ワークショップ実践セミナー」運営委員・セミナー講師(山口県／2001～2002年)
- ◆「宇部市ボランティアカレッジ」講師(宇部市／2001～2002年)
- ◆「男女共同参画いきいきセミナー」講師(岩国市教育委員会／2003年)
- ◆「神田川川づくり検討委員会」学識委員(下関市／2003年)
- ◆「災害発生—そのとき私たちは—」(沖縄高専第一回生涯学習講座 企画・実行／2011年)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

琉球王国時代の仏教文化研究



氏名：	下郡 剛/Shimogori Takeshi	E-mail：	takeshi@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	史学会他多数		
キーワード：	琉球史・沖縄史・日本史		
技術相談 提供可能技術：	・なし		

研究内容：

- 研究分野
シーズ
- ・久米島上江洲家文書の研究
 - ・近世琉球寺院の社会的機能の研究
- (琉球史)
- ・近世・近代期の家譜・位牌・厨子壺銘書などを用いた系譜復元
 - ・琉球仏教史
 - ・王国時代の文化財研究
- (沖縄史)
- ・戦争遺跡の研究
- (日本史)
- ・院政期の国家意志決定システムの研究
 - ・公家成文法の復元と社会的意義の研究

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル:

リーマン面の正則族とタイヒミュラー空間

氏名: 山本 寛 / Yamamoto Hiroshi E-mail: yamamoto@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: リーマン面, タイヒミュラー空間

技術相談
提供可能技術: ・リーマン面
・タイヒミュラー空間



研究内容:

一次元複素多様体をリーマン面という。複素数平面もリーマン面の一様である。リーマン面は複素数平面の様に平らではない曲面に対して、複素関数の微積分の概念を導入したものと考えることができる。リーマン面には様々な形をしたものが考えられる。リーマン面のなかでも g 人乗りの浮き輪の形をしたリーマン面を「種数 g のコンパクトリーマン面」という。 g 人乗りの浮き輪といっても様々な形が考えられるのと同様、種数 g のコンパクトリーマン面は(g を一つ固定した場合でも)無限に沢山存在する。種数 g のコンパクトリーマン面の双正則同値類全体を種数 g のコンパクトリーマン面のモジュライ空間という。モジュライ空間には自然に複素解析構造が導入される。パラメータ空間としてリーマン面 R を考える。 R の任意の点 p に対して、ある種数 g のコンパクトリーマン面 $S(p)$ が p に対して正則に対応しているものとする。この様に、パラメータ空間として考えるリーマン面 R の点 p によって正則にパラメータ付けされた種数 g のコンパクトリーマン面 $S(p)$ の集まりを「種数 g のコンパクトリーマン面の正則族」という。リーマン面の正則族は、複素解析学の重要な研究対象の一つである。リーマン面の正則族を調べる上で、タイヒミュラー空間が重要な役割を果たす事が知られている。リーマン面の正則族の個数の有限性は、未だ完全には解決されておらず、この分野の大きな未解決問題の一つである。私はリーマン面の正則族やその正則断面の個数の有限性を調査する為、特にリーマン面の正則族の具体的かつ重要な例について調べている。

種数 2 のコンパクトリーマン面



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

錯視効果を応用した運動学習

氏名：	和多野 大 / Watano Dai	E-mail：	watano@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士
所属学会・協会：	日本スポーツ学会, 日本スポーツ心理学会, 九州スポーツ心理学会		
キーワード：	スポーツ心理学, 運動学習, スキル修得, 競技力向上		
技術相談 提供可能技術：	・運動技術修得 ・スポーツメンタルトレーニング		



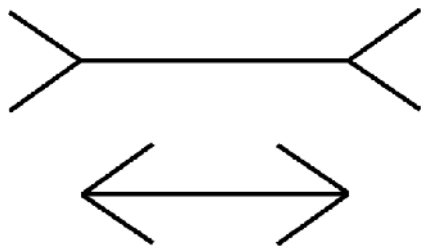
研究内容： 錯視効果は運動学習に応用できるか？

錯視の効果は運動パフォーマンスに影響しないことが知られている。しかし、練習段階において錯視を効果的に活用し、運動技術の修得に対して効果をあげることは、できないだろうか？

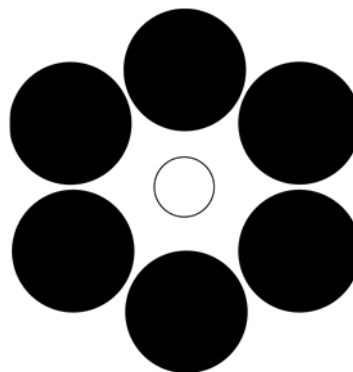
本実験ではダーツを用い、錯視が発生しうる様々なシチュエーション・環境を作り出し、実験を重ねている。これまで、ミューラー・リヤー錯視とエビングハウス錯視を用いた予備実験を行い、九州スポーツ心理学会にて発表を行っているが、実験結果からは現状それぞれの錯視環境におけるパフォーマンスの特徴の考察に留まっており、そこから運動学習へ発展させるまでには至っていない。ただし、複数回の予備実験研究において、パフォーマンス向上のための可能性は示唆されている。

また、「開放的空間」「密閉的空間」におけるパフォーマンスの差の発生についても実験を重ねている。分かりやすい例を挙げると、野球の投手が広い球場のマウンドから投球する状態が「開放的空間」条件、狭い室内ブルペンで投球する状態が「密閉的空間」条件である。開放的空間と密閉的空間の間の錯視量は微々たるものであるが、これまでの実験では、両者の条件下において、一定のパフォーマンス差が発生しており、そのほとんどが密閉的空間条件のほうが優れたパフォーマンスを示している。しかし競技として結果が求められる環境は多くの場合、開放的空間条件であるため、最終的に求められるパフォーマンスを限られた練習環境面から整える一助として、密閉的空間条件での練習における錯視効果の応用を模索している。

本研究では主にダーツを用いているが、ターゲットシューティング系の要素を含む競技種目であれば、応用は可能ではないだろうか。アーチェリーや弓道、射撃系競技などのほか、テニスのサーブ、バレーボールのサーブ、バスケットボールのフリースロー、野球の投手の投球など、対戦相手の干渉がないクローズドな条件での学習において、応用が見込まれる。



ミューラー・リヤー錯視



エビングハウス錯視



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

二階算術におけるゲームの決定性



氏名:	吉居啓輔 / Yoshii, Keisuke	E-mail:	kyoshii@okinawa-ct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	日本数学会		
キーワード:	数学基礎論, ゲームの決定性		
技術相談 提供可能技術:	・公開講座等		

研究内容:

私の研究のテーマの一つは『複雑さを分類する』ということです。私たちが日頃から使っている実数ですが、まだまだ多くの性質が謎に包まれています。私の研究では仮想的なゲームを用いて、これまで明らかにされていない実数の性質を明らかにすることを目的としています。

キーワードの中の『ゲーム』というのは、仮想的な2人のプレイヤーによってプレーされるゲームです。このゲームでは囲碁や将棋のように勝ち負けを競うことが目的ではありません。このゲームは、数学上極めて抽象的な性質を持つ集合を、一定のルールに従ったゲームの中で構成することを目的としています。しかも、そのゲームのルールは、(論理的な複雑さの点において)構成される集合に比べ単純です。数学的に抽象的な性質を持った集合が、比較的単純な規則によって構成されているというような、複雑な事象を単純に整理・分類するということに強い興味をもっています。

複雑な対象を異なる観点から分類・整理するというような数学的な技術は学生が将来産業界で活躍する上でも重要な能力の一つであると考えています。沖縄高専では学生自身の問題意識に沿った創造性溢れる課題研究を行うことを目的として「創造研究」を実施しています。具体的な学習目標を立て、試行錯誤することを楽しみながらその目標を達成することができるような人材を育てたいと思っています。

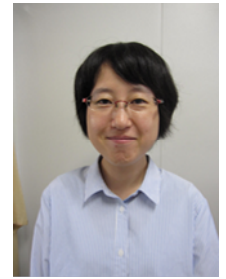
研究活動で得られた技術や考え方を、教育を通して沖縄、延いては日本の産業に貢献することは私の大きな目標です。そのためにも、どのような人材が必要とされているのか、また必要とされていくのかを、産業界で実際働かれている方々のご意見を伺いながら模索していきたいと考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

中世日本語における原因理由表現



氏名: 片山 鮎子 / KATAYAMA Ayuko E-mail: ayuko.k@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 岡山大学国語国文学会、岡山民俗学会、訓点語学会

キーワード: 国語学、文法、文学、中世の日本語

技術相談

提供可能技術:

- ・国語学
- ・文章指導
- ・文学

研究内容: 中世日本語の接続助詞と漢籍受容

中世の日本語における条件表現のうち、順接の確定条件表現に関する接続助詞について研究している。

たとえば、「ホドニ」「ニヨッテ」「ユエ」「ユエニ」「已然形＋バ」「ヲモッテ」といった表現が中世から近世にかけて文章や会話の中で使われている。これらは現代でいう「カラ」「ノデ」といった表現と同じように原因理由を表しているのだが、それぞれの表現形式がどのような役割と違いをもっているのか、ひとつの資料の中でどのように使い分けられているのかを調査、分類していく。

また、現在は甲斐武田家の漢籍受容について武田信繁家訓を資料として研究している。研究に際しては中世口語資料である抄物を使用し、当時の日本で読まれた漢籍を字の異同と訓読を調査し、テキストと学派を明らかにする。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

琉球諸語・国頭語・本部町諸方言の記述文法

氏名：	崎原 正志 / SAKIHARA Masashi	E-mail：	mashi_s@okinawa-ct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(学術)

所属学会・協会： 沖縄言語研究センター運営委員(2020 年～)

キーワード： 記述文法(音韻論・形態論・構文論)、琉球語学(国頭語・沖縄語)、危機言語

技術相談
提供可能技術：

- ・幼児および小中学生を対象にしたウチナーグチ(沖縄語)の授業
- ・言語を記録し、保存する方法(ドキュメンテーション)の指導
- ・英語で琉球諸語や沖縄語について授業(特に多様性・危機的状況について)



研究内容： 琉球諸語(特に国頭語および沖縄語)を対象としたフィールドワークおよび文法記述

【現在の研究・展望(更新)】

現在、国頭語に属する本部町内で話されるシマクトゥバを対象に調査を実施中である。調査地点は、主に具志堅・伊野波・伊豆味・渡久地・瀬底である。また、屋取集落と呼ばれる新設集落のシマクトゥバについては研究が遅れている。したがって、新設集落のシマクトゥバについても調査を実施する予定であり、本研究の特徴でもある。

【きっかけ】

学生時代、英語教育を通して、海外に興味を持ち、高校生のとき米国本土に留学、その後、ハワイに留学したことをきっかけに、故郷である沖縄について深く考えるようになった。印欧語以外の言語にも触れたいと強く感じ、韓国留学も果たしたが、そこで今まで以上に自分がウチナーンチュ(沖縄の人)だと再認識することとなった。英語や韓国語を学ぶことを通して、遠回りではあったが、沖縄の言葉を学ぶ必要性によりやく気づき、危機的な状況にある沖縄の言葉を残していきたいという気持ちから、標記のような研究内容に行き着いた。

【研究背景】

琉球諸語には、6つの危機言語が含まれる(奄美・国頭・沖縄・八重山・宮古・与那国の6つ)。その6つの言語を総称してシマクトゥバあるいは琉球諸語と呼んでいる。多くの話者は、80歳以上の高齢者で、全員が日本語とのバイリンガルであり、その中でも日常的に使用している人は限られている。日本語の影響による変化により、伝統的な言い回しや表現、文法形式を保持している人も減ってきている。沖縄県のシマクトゥバ推進事業や NPO 法人・個人の活動家による言語復興運動が盛んになってきてはいるが、一向に、シマクトゥバの危機的な状況は大きく変わってはいない。研究者は、このような状況をフィールドワークを通じてよく熟知しており、北は奄美から南は与那国まで個々の集落のシマクトゥバの記録・保存に勤しんでいる。

【これまでの研究】

修士および博士論文では、沖縄島那覇市の北東に位置する首里地区で話されるシマクトゥバ(首里方言)を対象に、フィールドワークを実施、終助詞(「よ」「ね」のような文末につく助詞)やモダリティ(「命令」「質問」など文全体が表す意味・発話の目的)について詳細に分析を行い、網羅的に文法記述を行なった。

崎原正志・狩俣繁久他(2012) *Rikka, Uchinaa-nkai! Okinawan language for beginners*

【研究に関わる活動】

シマクトゥバや沖縄に関わる書籍の翻訳・シマクトゥバを子供向けに教える活動・シマクトゥバによる絵本の読み聞かせ・英語でウチナーグチが学べる教科書(写真)の作成・編纂・出版、など。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

コーチング

氏名： 島尻 真理子 / SHIMAJIRI Mariko E-mail: shimari5@okinawa-ct.ac.jp

職名： 講師 学位： 修士(スポーツ学)

所属学会・協会： 日本ハンドボール学会

キーワード： スポーツ科学、コーチング、ハンドボール

技術相談
提供可能技術：
・ハンドボール
・コーチング
・レフェリング



研究内容：

〈1〉

走・跳・投の基礎運動能力を必要とするハンドボール競技では、相手より1点でも多く点を取ることが求められる。この点を取るという「成功」を得るために、チームは、日々の体力・技術・戦術等のトレーニングが必要不可欠である。その中でも、実際に点を取るための戦術ならびにその指導方法に着目し、チーム状況やゲーム状況に応じた戦術の体系化や合理的な指導方法の研究を行い、ハンドボール競技の指導における一助とする。

〈2〉

スポーツにおける競技力向上には、「強化」はもちろん、その裾野を拡げるための「育成」が求められる。これに加え近年では、そのゲームを公正・的確にジャッジすることが求められる「レフェリー」の存在も、注目されている。ハンドボールにおいても過言ではなく、プレーヤー強化および指導とレフェリー強化が両輪となり、世界と戦うためのチームを目指している。しかし、レフェリーに関する研究は進んでいないのが現状である。そこで、レフェリーがゲームに及ぼす影響、レフェリングの実際の研究を行うことで、最終的にレフェリーの育成システムの構築を目指す。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル: English as a Foreign Language Foreign Language Classroom Anxiety

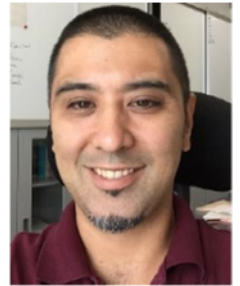
氏名: カーマン マコア / CARMAN Makoa E-mail: makoac@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師 学位: 修士 (教育)

所属学会・協会: The Japan Association for Language Teaching (JALT)

キーワード: 第二言語としての英語教育、外国語クラスルーム不安 (FLCA)、

技術相談
提供可能技術:
・オーラルコミュニケーション指導
・カリキュラムデザイン
・英語学習者に対する英語指導



研究内容:

英語学習者に対し、オーラルコミュニケーションに焦点を当てた英語教育。

日本の多くの学生 (英語学習者) は英語を話すことに対し否定的な感情を持つ傾向にあり、外国語クラスルーム不安 (Foreign language classroom anxiety = 以下 FLCA) は英語学習者のみならず、多くの言語学習者がぶち当たる壁だといっても過言でもない。FLCA とは言語学習は第二言語を学んでいく段階で感じる不安のことで、一例として

- ・言語 (英語) 学習に対するモチベーションや意欲の低下
- ・英語を習得するという大きな課題・目標に対する絶望感
- ・クラス内での (発話、テスト、間違い等に対する) 恐怖感

等が挙げられ、このような情意要因が外国語学習の達成に影響していると考える。

英語学習者の FLCA を軽減するテクニックに関する研究を行い、英語学習者に対しクラスルーム内でのモチベーションアップにつなげていきたいと考える。また、FLCA を解消するために、催眠療法の応用をも視野に入れ、それを可能にするためにも催眠療法の使用法について探究も進めていきたい。

Teaching English language learners (ELL) with a focus on oral communication.

Many students in Japan associate speaking English with negative emotions. Foreign language classroom anxiety (FLCA) is an obstacle many ELLs never overcome. FLCA may result in a lack of motivation to study, feelings of hopelessness, panic, or withdrawal in the classroom.

I plan to research techniques to reduce the anxiety and improve the motivation of ELLs in EFL classrooms. I would like to explore the use of hypnotherapy to reduce anxiety and increase motivation and the possible application of hypnotherapy in the reduction of FLCA.

提供可能な設備・機器:

名称・型番 (メーカー)	

研究タイトル:

異文化理解の英語教育への応用



氏名:	山内祥之 / YAMAUCHI Yoshiyuki	E-mail:	yamauc-y@okinawa-ct.ac.jp
職名:	講師	学位:	修士(人類学)
所属学会・協会:	沖縄英語教育学会、九州英語教育学会、全国英語教育学会		
キーワード:	文化人類学、異文化理解、英語教育		
技術相談 提供可能技術:	・英語教育 ・国際共通語としての英語 ・異文化理解(異文化間能力)		

研究内容:

(研究予定)

- ・会話トピックや話題の親近性に焦点を当てた英語スピーキング能力(CAF: Complexity, Accuracy, Fluency)の育成
- ・パラグラフ・ライティング、プロセス・ライティングを通した英語ライティング能力の育成
- ・授業内で実践可能な英会話活動の開発
- ・異文化理解の視点を通した英語技能の発達

東京の大学で英米文学、アメリカ合衆国カリフォルニア州の大学院(修士課程)で文化人類学を専攻。その後地元の沖縄で、主に高校生の英語教育に携わってきた。会話トピックの親近性と英語スピーキング能力の関係、資格試験等で必要な英語の知識・技能の育成、異文化背景を持つ他者との交流などが主なテーマである。

高専に着任してからは、これまで培ってきた知識・技能などを生かすべく、英語教育と異文化理解の関係を主な研究テーマとしている。変わりゆく社会において、「英語」や「異文化」といったキーワードが持つ意味を模索し続けている。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

スピーチ・プレゼンテーション教授法



氏名： 吉井 りさ / YOSHII, Risa E-mail: ryoshii@okinawa-ct.ac.jp

職名： 講師 学位： 修士(教育カウンセリング学)

所属学会・協会： 沖縄英語教育学会

キーワード： 教育カウンセリング、教授法

技術相談

提供可能技術：

- ・ スピーチ・プレゼンテーション・ディベート教授法
- ・ オーラルコミュニケーション
- ・ モチベーション・ラーニング

研究内容： モチベーション・ラーニング

英語を専門としない高専生に、英語を用いたプレゼンテーションやスピーチ・ディベートを習得させるには、「学生への動機付け」がポイントになります。学習へのモチベーションの高め方にはいろいろな方法がありますが、個人個人の英語の習熟度に関わらず、学生は自分の意見を述べる機会を与えられると、「クリエイティブな表現をする自信（Creative Confidence）」を得て、学習へのモチベーションが上がる傾向にあります。

ですから、「英語が使える技術者・科学者」の育成を目標に、「できる限り英語を英語で教え（Teaching English in English）、生徒が発話しやすい生徒中心型の授業（Student-Centered Communicative Classes）」を展開し、英語を知識偏重型ではなく、「グローバルコミュニケーションのツール」として教える研究をしています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

余剰次元による標準模型を超える物理の探索

氏名： 藤本 教寛 / Yukihiro Fujimoto

E-mail: yfujimot@okinawa-ct.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本物理学会

キーワード： 素粒子標準模型、高次元理論(余剰次元模型)、フェルミ粒子のフレーバー構造問題

技術相談

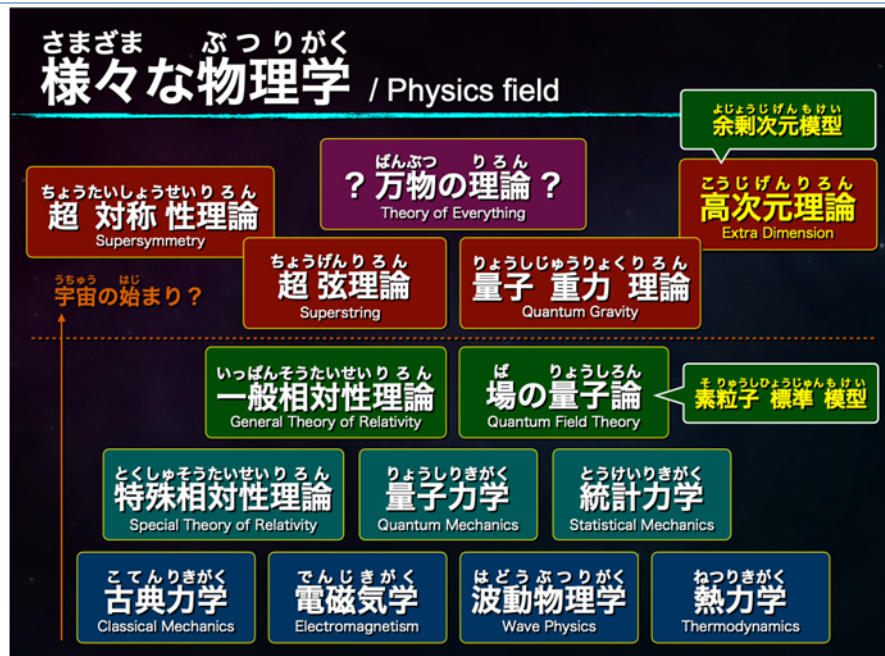
提供可能技術：

- ・素粒子標準模型の解説
- ・場の理論、高次元理論(余剰次元模型)に関する解説
- ・最先端の知識解説や、ブラックホールなど興味ある物理現象に関する出前授業



研究内容：

- (1) 「素粒子標準模型」は、人類が手にしている科学知識の中で最も宇宙の始まりに近い理論で、現在の宇宙の物理法則を最もよく説明できる模型です。しかし素粒子標準模型にはまだ多くの未解決の問題があり、それが宇宙の始まりを解明する鍵と考えられています。
- (2) 特に物質を構成している「フェルミ粒子」には、「フレーバー構造問題」と呼ばれる未解決問題が残されており、これを4次元時空より高い次元を持つ「余剰次元模型（高次元理論）」を用いて解決する新しいシナリオを提唱しています。
- (3) 我々の日常生活を取り巻く存在である物理学を、学生や一般の皆様にもわかるように解説する出前授業も行っております。ブラックホールやニュートリノなど、興味あるワードに関して解説授業を行いますので、お気軽にご依頼ください。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：



氏名：	真喜屋 美樹／ MAKIYA Miki	E-mail：	makiya_8@okinawa-ct.ac.jp
-----	---------------------	---------	---------------------------

職名：	特命准教授	学位：	博士(学術)
-----	-------	-----	--------

所属学会・協会：	日本環境会議、日本地方自治学会、日本地域経済学会
----------	--------------------------

キーワード：	地域開発、都市政策、米軍基地跡地利用、内発的発展
--------	--------------------------

技術相談 提供可能技術：	・ ・ ・
-----------------	---

研究内容： 在沖米軍基地返還後の内発的都市政策

沖縄県で行われた米軍基地返還後の大規模再開発を検証し、現在の沖縄の豊かさを次世代につなぐ持続可能な発展に向けた内発的都市政策について研究しています。これまでの研究では、沖縄県で最も人口と産業が集中する沖縄本島中南部都市圏で行われた大規模な基地跡地利用を批判的に分析しました。その成果は、沖縄県や基地所在基礎自治体の開発計画や都市計画に関する審議会等に委員として参加させていただいたことで、当該自治体の将来ビジョンに反映されています。

米軍基地返還後の跡地利用によって都市形成された那覇市のおもろまち、北谷町のアメリカンビレッジは、かつて都市部における再開発の成功例と考えられていました。しかし昨今では、都市部の広大な基地跡地で似たような商業開発が行われることに多くの方が疑問を持つようになってきました。沖縄県が持続可能に発展するためには、どのような将来ビジョンが必要なのか？地方自治体はどのように地域を作っていくのか？地域で暮らす人々のための将来ビジョンを内発的発展の視角から考察しています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	